



学



校



便



り

第22号
since 2006

久田学園佐世保女子 高等学校
H20(2008).11.6 [平成20年度 第4号]

YOSAKOIもいっけいけど・・・『おにぎりピック』も熱い！！

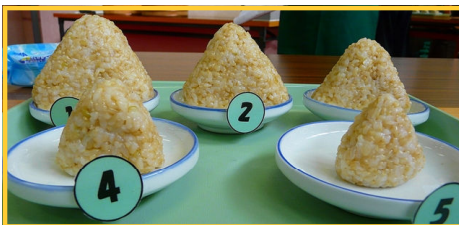
10月25日(土)、今年で3回目となる『おにぎりピック』を開催しました。“個食”あるいは“孤食”といった問題が取りざたされる中、おにぎりづくりを通して**“食”の大切さについてみんなで楽しく考えよう**という取り組みです。実際に昨年の参加者の方から「食の細かった子供が、イベントの後、食欲旺盛になった」との嬉しい感想もいただいています。

今年では従来からの「デザイン部門」に加え、「ぴったり部門(中学生の部・親子の部)」を新たに

実施。秋の一大イベント「YOSAKOIさせほ祭り」と日程が重なり人出が心配されましたが、おかげ様で35チーム・約150名の皆様にお集まりいただきました。ダンスバトルならぬ**“おにぎりバトル”**を展開し、YOSAKOIに負けない熱気で、会場は大いに盛り上がりを見せました。熱戦が終了し、競技でつくったおにぎりにホカホカのつみれ汁やお漬物、そしてみんなの会話や笑顔をおかずに楽しく美味しい昼食。その後、新鮮野菜や鮮魚の抽選会・閉会式と進行し、最後は参加者・応援の皆さんすべてに**玄米1kg**をお土産としてお持ち帰りいただき、無事終了。食べる楽しさを再確認できたイベントでした。



初お目見えの“ぴったり部門”



初登場の“ぴったり部門”のルール説明です。

- 1) 重さの違う見本のおにぎりが5つあり、参加者にはその重さは知らされていません。(今回は①200g ②150g ③100g ④50g ⑤30gを用意)
- 2) 参加者にくじで見本のおにぎりを3つ選んでもらい、見た目だけでそれぞれ3つのおにぎりと同じ重さのおにぎりをつくる。(例：①③⑤のくじを引いた場合、合計330gとなる)
- 3) 握ったおにぎりを計量し、見本との誤差の少なさを競う。

まずは中学生の部1組目のスタート。腕自慢のそれぞれ3人組・3チームが壇上へ上がりました。くじの結果、見本の重さは350gに決定。大胆に、そして慎重に握っていきます。そして運命の計量。デジタル式の計量器が映し出した数字は何と350g!!観客席からはどよめきが起こり、当事者の中学生たちは跳び上がって喜んでいました。いきなり1組目から「ぴったり」が出てしまいました。

中学生が終わると次は親子の部です。大きいおにぎりはお母さんやお父さん、小さい方は子供たちと役割が決まっているチームが多かったようです。見本と何度も見比べながら、小さな手で懸命に握る姿に、見ている皆が笑顔になり、何とも言えない和やかな雰囲気になりました。そんな親子の部ですが、これもまた1組目から「ぴったり」のチームが現れ、会場を沸かせていたようです。主催者側としては、誤差10~20gぐらいの範囲で、僅差の勝負になるのではないかと考えていましたが、まさか**「ぴったり」が2チームも**出るとは予想以上でした。しかしそのおかげで、会場も競技自体も盛り上がっていたようでした。

成績は次の通りです。中学生の部1位・おにぎりレンジャーリターンズ(誤差0g)、同2位・M I Y A(誤差+7g)、同3位・山登おにぎりガールズ(誤差-8g)。親子の部1位・Youki(誤差0g)、同2位・イオリンヒロリン(誤差-6g)、同3位・チームユイちゃんず(誤差-10g)。



芸術の秋 "デザイン部門"

デザイン部門のルールは、直径40cmの白いお皿に大小色とりどりのおにぎりを配置して、絵を描くというものです。色は黒（海苔・黒ゴマ）、赤（梅干）、茶（おかか）、黄（サフランライス）、緑（青のり）、紫（ゆかり）、ピンク（でんぶ）、肌色（ゴマ）を使用します。ただしどの色も、おにぎりに混ぜ込む・巻く・包む、いずれかの方法を取り、白いおにぎりの上に、まぶしたり載せたりするだけではいけません。

以上のルールやアイデア・バランス等を踏まえ、審査した順位は次の通りです。最優秀グッドデザイン賞・元気（くだもの）、アイデア賞・おにぎりレンジャーリターンズ（おでんくん）、審査員特別賞おにぎりハイ!!おま（ミニーちゃん）。力作揃いで順位をつけるのが難しく、接戦になりました。



おにぎりデザイン作品集



お菓子の家



ランボマン



ピングー



皿の上のポニョ



打ち上げ花火



崖の上のポニョ



おいしい果実たち



ミニーちゃん



くだもの



おにぎりの原点とマイちゃん



かがやけ!!アンボンマン



必笑だんご剣



ポニョ



崖の上のポニョ



おでんくん

むすんだのは笑顔と絆。そしておにぎり!! ありがとうございます。



地味な仕事があっこそ。『縁の下の生徒たち』

『おにぎりピック』開催にあたっては、炊飯・会場設営・お土産の仕分けなどの事前準備。そして当日は受付や司会、道具の運搬、お昼の準備など裏方に徹した本校生徒。そのおかげでスムーズに運営ができ、大成功のうちに終わることができました。何事も目に見えることだけではなく、その裏で多くの人たちの支えがあることを感じることもできたのではないのでしょうか。前日にはリハーサルを兼ねて、生徒が主役の『プレおにぎりピック』を開催。その作品をどうぞご覧ください。



CAT4



愛しのマリーちゃん



顔なし

市民芸術祭 ～花結びファンタジー～



10月5日の日曜日、アルカスSASEBOにて市民芸術祭が行われました。本校生徒は花結びのモデルとして登場。花結びとは着物の帯で花を形かたちづくることです。“ウンゼンツツジ（長崎県の花）”“カノコユリ（佐世保市の花）”をはじめ“バラ”や“チューリップ”といったお馴染みの花も表現。ステージ上に、14種類・色とりどりの花々が一切に咲き誇ると、観客席から盛んな拍手と歓声が沸き起こりました。ずっと練習を重ねてきた甲斐がありました。

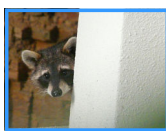
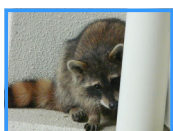
乳幼児ふれあい体感事業を実施

10月15日（水）、「乳幼児ふれあい体感事業」を実施しました。ご協力いただいたのは市内にお住まいの6組の親子13人です。将来母親になるであろう生徒たちへ、現役のお母さん方から出産や育児の大変さや楽しさなどお話しいただき、その後、実際に子供たちと遊んだりミルクを飲ませたりと触れ合いを行いました。お母さん方は口々に「妊娠・出産・育児と大変でとてもきついし、自分の時間が欲しい時もある。けれど、**子供の笑顔を見るだけで元気をもらって**また頑張ろうという気持ちになる」と仰られていました。ずっと受け継がれてきた命のリレーをつなぐ尊い行為。その責任あるいは自覚からでしょうか、生徒に向かって話すお姿は堂々と、どこか威厳に満ち、まさに「母は強し」という言葉がぴったりと当てはまるようでした。

生徒の感想を見ると「親に感謝したい」「命の大切さについて考えさせられた」など、それぞれ深く心に思うものがあつたようです。ご来校くださいましたお母様と乳幼児の皆さんに感謝しつつ、すくすくと元気に成長されることをお祈りしています。ありがとうございました。



千客万来！！



「おにぎリンピック」や「乳幼児ふれあい体感」など今年の秋はたくさんのお客様が本校を訪れました。そんな中、ある日ひょっこりと**アラグマ**が来校されました。佐世保市亜熱帯動植物園によると「ペットとして飼われていたものが野生化したのだろう」とのこと。このお客様、木や山の斜面を登ったりと熱心に校内を視察され、その後校舎の一角に腰を落ち着かせ、そのまま一晩おくつろぎになられたようです。

自然の世界も生きるのは大変かとは思いますが、本校と大久保小学校が収穫を待ち望んでいるイモ畑だけは、視察を控えてほしいと願わずにはいられません。